

他者を利して自身の利益とすることこそ真の利益

中国人民大学学生代表

見学日時：2016年5月27日（金） 09:30-12:30

見学場所：アサヒビール神奈川工場



見学概要

アサヒビールの歴史は120年前までに遡り、これまで日本のビールブランドのトップ3の座を維持し続けている。「スーパードライ」ブランドは日本で唯一年間販売量が1億箱を超えたブランドである。アサヒビールは企業として名高いだけでなく、その製品を通じて私たちに楽しさと満足感を与えている。

朝9時30分、私たちはアサヒビール神奈川工場へ到着し、ホールで解説スタッフから今日のスケジュールの紹介を頂いた。その内容は主に会社紹介ビデオの観賞、工場見学およびビール体験の三つであった。飲酒ができない未成年の団員を確認した後、私たちは今日の最初の活動に入った。

私たちはまず初めにアサヒビールの会社紹介ビデオを観賞し、同社の発展の歴史や経営理念および現在の生産・運営メカニズムなどアサヒビールについて基本的な理解を得た。会社の目標は「美味しい」ビールの製造であるが、それだけでなく一企業として社会的責任も担っている。そのため、アサヒビールは環境保護を重視しており、環境に優しく、資源を再利用することで循環型社会を構築し、美しい自然を将来へ残している。

次いで私たちは解説スタッフの引率の下、原料・糖化工程・発酵熟成工程・ろ過工程および包装工程などビール製造の各工程段階を順に見学した。製造過程全体はハイテク化されており、神奈川工場の製造ラインでは1秒間に25缶のビールを生産することができ、1分間では1500缶と、生産効率は非常に高い。また私たちは同社のビール品質に対する重視の度合について理解を深めることができた。各工程が機械で精密に操作されているだけでなく、スタッフはその味覚を通じて絶えずビールの検査をしているのであった。

最後に私たちは皆で同社のビールを試飲し、爽やかで滑らかな口当たりと黒ビールの深い香りを体感した。今回私たちはアサヒビールに対する知識の他、美味しいビールも味わうことができた。ビールを飲みながら皆で今回の見学の感想を語り合うなど、リラックスした雰囲気の中、私たちはアサヒビールでの見学を終えた。

知っていますか？

問:アサヒビールの原料は？

答:神奈川工場において私たちは、麦芽やホップそして水といったビールの主要原料を目にし、またその香りを体験することができました。アサヒビールでは、粒が大きく、澱粉が多く、適度にタンパク質を含んだ皮の薄い二条大麦を使用しており、これはビールの生産に非常に適している。次にホップはビールに独特の香りや苦味を加え、またビールを澄み切らせ、雑菌の繁殖を抑え、泡立ちや泡持ちの効果を有している。さらに水中のミネラルの質と量がビールの口当たりや大きさに大きく影響するため、アサヒビールでは、ろ過した良質の水を使用している。アサヒビールはビールの品質を追求するという一貫したモットーに従い、麦の一粒、水の一滴からホップの一つに至るまで、自身の厳しい基準に適した原料のみを使用している。また酵母も厳選されたもので、最先端の技術と設備を使い厳しく管理された製造過程を経て、出来立てのビールの味を完全に留めることで、消費者が爽やかな口当たりを楽しむことができるのである。

問:アサヒビールの工場において、美味しいビールはどのように生産されているのか？

答:まず麦芽の製造工程において、黄金色の大麦に水と空気を与え発芽させる。その後、熱で乾燥させ根を取り除き麦芽とする。そしてその麦芽は糖化工程に入り、一部の麦芽は米、とうもろこし、澱粉などの副原料と一緒に糖化釜の熱水に入れて煮しめ、残った麦芽は糖化槽の熱水に入れた後糖化釜に入れる。こうすることで、液体中の澱粉が麦芽糖に変わる。糖化槽で生成した麦汁をろ過した後、ビール特有の香りをつけるため、ホップを麦汁に入れて煮沸し、渦流器により不純物を取り除き冷却する。冷却後の麦汁はビール製造において最も重要な工程である発酵熟成に入る。麦汁に厳選したビール酵母を入れ発酵させると、麦汁中の糖分が酵母菌によりアルコールと炭酸ガスに分解され、生成された「麦のジュース」を数十日かけて熟成し、ろ過することで黄金色の生ビールが誕生する。しかしここでは終わらず、アサヒビールでは毎日専門の検査スタッフが造られたばかりのビールに対して官能検査を行い、終始変わらないビールの美味しさを維持している。最後に、造られたビールは瓶、缶、樽に詰められる。またビールの鮮度を維持するため、その自動化生産ラインは1分間に350ml缶を1500缶(約163箱)というスピードで生産をしている。そして内容量などの厳しい製品検査をパスしたものが箱詰めされ出荷される。

問:アサヒビールは自然の保護のためにどのようなことを行っているか？

答:見学を通じて、私たちはアサヒグループが自然の保護のためにとても大きな貢献をしていることを知った。日本のすべてのアサヒビール工場では、会社スタッフと現地住民が共に水源地の保護活動をしており、除草、植樹、枝打ちなどにより、水源地の森林などの健全な成長を確保し、現地の生物の多様性を保護している。この他、私たちが最も感動したのは、広島県庄原市と三次市に広がる社有林であるアサヒの森をアサヒビールが70年以上にわたって守っており、現在では2165ヘクタールにまで成長しているということである。この森の中には「アサヒ森の子塾」と呼ばれる場所があり、そこでは現地の児童を対象として森林環境教育活動が行われている。森林での自然体験を通じて、子供たちは二酸化炭素隔離および生物多様性の保護など森林が担う役割について身を以って体験し、環境保護の重要性を学んでいる。アサヒビールの環境保護意識や社会的責任感は、こうしたことから見て取ることができる。

問:アサヒビールを飲んだことはありますか？アサヒビールはどのように「最高の品質をお客様にご提供する」という目標を実現しているか知っていますか？

答:アサヒビール神奈川工場の見学の最後に、私たちは美味しい同社のビールを試飲することができた。その口当りはまろやかで、泡も非常にきめ細かく、また香りもとても良いなど、こうしたことからアサヒビールは確かに「最高の品質をお客様にご提供する」という目標のために、たゆまぬ努力を続けているということが感じられた。アサヒビールは独自に研究開発した辛口特級酵母に、独特の発酵技術を組み合わせることで、渋みがなく、かつ香りが良

く、辛口のビールを造りだしたのである。この他、この目標は製造面にも表れている。アサヒビールはビールの鮮度への基準が非常に高く、生産から8日前後が最も美味しい。そのため8日間でお客様の手元に届くように、同社ではディーラーの在庫や物流などの問題を総合的に考慮している。こうした「トータルフレッシュマネジメント」もアサヒビールの主要な管理目標である。

感想

アサヒビールの製品開発における初志は、私たちにとって印象深いものであった。彼らはビールを売るためだけにビールを生産しているのではなく、消費者の視点から、消費者が求める美味しいビールを造りだすためにビールを生産しているのである。仮にこうした思いがなければ、製品を売るためだけに生産をすることになり、心をこめた生産や改良をすることはなく、「どっちみち自分の製品を買う人がいるのだから、品質はこだわらない」という態度で、真剣な生産、さらにはより優れた製品の生産を追求したりはしないであろう。ただしアサヒビールには、こうした消費者を思う心があり、まさにそのため彼らは生産工程や生産技術そしてビールの味の改善を継続し、消費者へキレのある口当たりを提供しているのである。

またこうした思いはアサヒビールのビール生産における各工程にも表れている。原料の選択から最後の箱詰めまで、各工程は真剣にまた念入りに行われている。アサヒビールは高品質のビールを生産するというモットーに則り、先進的技術により厳しく原料を選択し、麦の一粒からホップの一つ、そして水の一滴まで最も優れた原料を使用している。例えば水は、必ず澄み切っていて、無色無味、そしてろ過をした良質の水でなければならない。またアサヒビールでは内容量検査機などの機械による厳しい検査だけでなく、専門の検査スタッフを配置し、日々生産されるビールの味をチェックするという官能検査も行われている。こうした基盤があるからこそ、彼らは消費者が満足するビールを提供することができるのである。

この他、アサヒビールは社会や自然への恩返しを行っている。彼らは「低炭素社会の構築」・「循環型社会の構築」・「生物の多様性の保全」・「自然の恩恵を明日へ」といった四つのテーマに基づき環境保護事業に積極的に従事することで、社会の持続可能な発展のため貢献をしている。例えば、水源地において植樹や枝打ちをし、水源地の森林の健やかな成長を確保している。またビール瓶を回収し新たな瓶や建築資材に加工したり、瓶のふたを回収し鉄筋やH型鋼に加工したりするなど、資源の100%回収利用を実現し、ごみの発生を防いでいる。

日本では、企業がこうしたことをするよう法律で規定されているわけではないが、アサヒビールは自発的に自分たちの力で、生態環境の保護や社会資源の整備を行っている。これは多くの企業が見習うべきものであり、眼前の、また自身の利益だけにとらわれず、生態環境の破壊を代償とした利益獲得をせず、それとは反対に生態環境の保護に尽力しているのである。企業が利益を追求することは間違いではないが、利益の追求と同時に社会全体や自然についても考えなければならない。これはまた企業だけではなく、私たち個人も学ぶべきことである。現代社会において、私たち一人ひとは低炭素生活へ向けた努力をしなければならない。例えば、なるべく公共交通機関を利用し、ごみの分類をし、無駄を減らすなどである。大自然はそのきれいな水源、すがすがしい空気そして美しい土地で私たちを育てており、私たちもまた自然をいたわり、そして恩返しをしなければならない。一人ひとりの力は小さいかも知れないが、世界中の個人の力を合わせれば、それはとても大きなエネルギーとなるのである。

だからこそ、他者を利して自身の利益とすることが結果として最良の利益となるのである。私たちも、アサヒビールのように自身の利益を守ると同時に、人類、社会そして大自然について考え、自身の力で社会や自然に貢献し、相互利益を実現していかなければならない。